彩の山

埼玉支部報
第 37 号

《題字　松本敏夫》

【目　次】

「埼玉やま塾」の役割　大山光一　1
山行報告
浅間嶺　吉田湖恵　3
和名倉山　田中麻志帆　4
奥武蔵・兵の沢　竹下智子　6
会津駒ヶ岳　朝井紀久子　8
武甲山　生田詳子　11
立山　轟　涼・萩原みか　12
甲斐駒ヶ岳・仙丈岳　生田詳子　15
高水三山　田中麻志帆　18
清掃登山・宝登山　中嶋信隆　19
荒船山　朝井紀久子　21
夏の白馬岳自然観察山行報告　渡邊泰子　24
登山教室指導者養成講習会報告　小玉和孝　26
山岳古道調査ＰＪ講演会
「峠歩きは面白い！」　松本敏夫　28
平日山行倶楽部
奥多摩ＢＳキャンプ訪問記　米山英三　29
霧ヶ峰で文学の香り　橋本久子　30
静かな尾瀬山行　浅田　稔　31
秋の涸沢に行く　清登緑郎　32
山の本棚シリーズ⑤　小原茂延　33
ペンリレー　第１回
私の好きな山ー北岳　林　信行　37
新入会員自己紹介　林　信行　38
事務局より　林　信行　38
編集後記　橋本久子　39

「埼玉やま塾」の役割

支部長　大山光一

会員の皆様には、埼玉支部の諸活動に対して格段のご理解とご協力を賜り感謝を申し上げます。また、コロナ禍、３密制限や行動範囲が徐々に緩和されていますが、油断することなく、従来同様のコロナ対策の励行に努め、安全で安心な登山を継続していきたいと考えています。

さて、第４期「やま塾」が半年余りの活動を経て、１０月８日（土）～９日（日）最後の登山実技を雲取山で行いました。初めて山小屋に宿泊された受講者の方は、「貴重な体験ができた」と喜んでいました。自然が相手の登山では、天候にも一喜一憂しますが、今年は幸いにも山頂からの眺望を堪能することができました。

やま塾の講座内容は、机上講習４回と登山実技４回。登山の実技は、奥武蔵や奥秩父が会場です。身近な山に触れながら登山の基本を学ぶ機会を大切にしたいです。

今期のやま塾は、１１月６日（日）第４回目の机上講習で終了となります。関係者の皆さん、長期間にわたり、お疲れ様、そしてありがとうございました。

埼玉やま塾開講の背景には、埼玉支部の会員数の減少傾向や高齢化を鑑み、組織活性化の観点から登山教室を導入した経緯があります。このような判断に基づく対応が、組織の衰退に歯止めをかけることに繋がっています。先輩諸氏の先見の明に敬服する次第です。

また、支部の身の丈にあった規模で運営をするために、行政や他団体の事業を受託するのではな

く、自力での募集とし、規模は１５名程度。募集方法は、HP、チラシ、雑誌、口コミ、等で行っています。

運営は、山岳ガイドの平川陽一郎会員を講師兼コーチに迎え、支部会員はそのサポートと受講者との融和促進役を担うことで支部の活性化につながっています。

また、この事業が一部のメンバーの負担にならないように、副支部長がリーダーとなり、より多くの会員を巻き込んだサポートチームを構成しています。

そして、２０１８年の第１期やま塾は、机上講習３回、登山実技３回で実施。受講者１５名（内２名は会員）で、支部への入会者は３名でした。

次の２０１９年は、第２期の受講者から９名が入会。入会後も支部活動に積極的な方が多く、各委員会で活躍しています。期待を込めた２０２０年の第３期も、募集活動を展開しましたが、コロナ禍のため開講の中止を余儀なくされました。

２０２１年は、コロナ禍に於ける開催を考慮して、机上講習はオンラインを導入したところ、その弊害として受講者とのコミュニケーション不足に苦慮しました。幸い２期生の４名がサポーターとして加わり、その役割を果たしてくれました。第３期の受講者から１２名が入会しました。

また、緊急事態宣言下での登山実技と重なり、慎重な判断を求められましたが、平川講師及び会員スタッフや受講者の協力で何とか乗り切ることができました。

今般、２０２２年の第４期やま塾が終了します。支部としては、受講者の多くの方が入会することを期待していますが、一方で課題もあります。それは新入会員と旧会員との乖離です。

新入会員の加入で、活動の主力の顔ぶれが変わりつつあります。登山経験の浅い会員の増加に伴い、登りたい山のリクエストに応えられなくなっています。一方、経験豊富だが高齢化でリーダー役を担えなくなった会員も増えています。新しい会員の育成とリーダー養成が急務となっています。

また、入会後の新入会員への指導、育成に関する課題が顕在化する中で、受け皿となる指導者不足が大きな懸念材料です。組織運営に関わる根本的な問題ですが、早期解決につながる打開策もなく、苦慮しています。

先輩諸氏の知識と貴重な経験を新入会員へ伝える有効的な手段が、あるいは学ぶ機会が少ないことが問題です。組織の方向性や特色を後継者に伝えることが、忘年山行、ウェルカム山行のような限定的な活動の範囲では不十分だと認識しています。せめて、交流する機会があればいいのですが、総会後の懇親会、等も制限されているコロナ禍では、暫くは難しい状況です。現状認識として、捉えていただきたい。

さて、日本山岳会 120 周年記念事業の山岳古道調査について、埼玉支部は本格的な調査活動を展開しています。コロナ禍、猛暑の合間を縫って調査活動に関わる皆さんに感謝の言葉しかありません。

調査活動で繁忙の折、山の日の８月１１日（水）、埼玉会館に於いて、「峠歩きは面白い」と題して、埼玉県立川の博物館研究交流部長の大久根　茂氏にご講演をいただきました。支部会員の参加を促すことは勿論ですが、埼玉県民の多くの方々に調査活動に参加する機会を広げて、山岳古道に関心と興味を抱かせる。そんな役割を公益社団法人日本山岳会埼玉支部は担っています。

これからも会員諸氏の意見を大切に、明るく、楽しい、魅力ある埼玉支部の構築に努めて参ります。

【山行報告】６月度月例山行「奥多摩・浅間嶺」

準会員　吉田湖恵

4 月スタートで入会し、この度「浅間嶺」に参加させていただきました。

初めての支部山行は不安と期待でいっぱいでしたが、待ち合わせ場所では支部の方々に明るく迎えていただき、まずはほっとしました。

当日の天気予報は曇り→雨。なんとかお天気がもってくれることを祈りながら歩きました。歩き始めはとても蒸し暑くいきなりの大汗。

でも登山道は緑が美しく（多少滑りやすいところはありましたが）古道らしく尾根道は歩きやすくて険しい岩場なども無く、心地よい尾根歩きでした。道中には石碑や石仏、お社があり昔ここを歩いた人々に思いを馳せながら…という雰囲気でした。

お昼休憩も展望台からまずまずの景色を楽しみながら少しのんびりできました。

下山道では「そば処　みちこ」（美味しいと評判だったとのこと）が昨年 11 月に閉店してしまったということで一同残念な思い！やはり「食」も楽しみの一つですよね。

最後はこちらも楽しみにしていた名瀑「払沢の滝」。近寄ってみたらその迫力に感動でした。

帰りの立ち寄りスポットはガイドブックにも載っている「ちとせ屋」（豆腐の店）でお豆腐とおからドーナッツを買って満足満足♡。

今回の山行ではとにかく大雨に見舞われることもなく、無事に下山できたことはとても良かったです。マイナスイオンたっぷりの緑と滝にも癒されました。

※武蔵五日市駅（9：00）→人里バス停（9：40）→人里峠（11：00）→浅間嶺ピーク（11：20）→ 浅間嶺 → 休憩所・展望台（11：35）・昼食（12：10）→時坂峠（13：20）→ 払沢の滝バス停（13：45）→ 払沢の滝（14：00）→払沢の滝バス停（15：03）　　歩行時間約 4 時間半

【山行報告】７月度月例山行「奥秩父　和名倉山　2,036m」

山行委員　田中麻志帆

今回は予定では梅雨時期の山行予定でしたが、山行直前に梅雨明けとなり、とても蒸し暑い中での山行となりました。天気は昼過ぎに少し雨に降られたものの、終日曇りで、歩きやすい天気でした。途中、ガレている箇所やわかりづらい道がありましたが、パーティー全員で協力して、登り切ることができました。山頂付近は奥秩父らしい苔むす雰囲気に癒されました。帰路は、急坂を慎重におり、三峰観光道路埼大山寮先駐車スペースで解散となりました。

和名倉山山頂

苔むす道

造林小屋跡名残の
トロッコ車輪

1、日　　程　　7 月 2 日（土）日帰り
2、場　　所　　奥秩父　和名倉山（2036m）
3、コースタイム
三峰観光道路埼大山寮先駐車スペース(5:30)→吊橋→反射板跡(8:10)→造林小屋跡(9:00)→北ノタル(11:10)→二瀬分岐(11:20)→山頂(12:00～12:30)→二瀬尾根(13:00)→北ノタル(13:20)→反射板跡(15:30)→吊橋→三峰観光道路埼大山寮先駐車スペース(17:30)

4、感想文

古川史典：

景色無、あるのは急登と熊と長時間行動と標高差 1500m超えとズーと森。そんな和名倉山に 4 月の下見に引き続き蒸し暑い頂上に立ちました。参加の女性軍は皆元気に山を楽しんでいたようですが、私は暑さに負け大汗海水浴状態になりました。救いは、造林小屋跡にある水場に冷水が出ていたことですね。

生田詳子：

今回の和名倉山の山行については、熊に出会うかもしれない薄暗い山、そして長く単調な道のり。と思っていましたが、実際には、明るく気持ちの良い山道であり、バラエティ豊かな道のりでした。今回 4 人の仲間と登れてとても満足しています。リーダーの古川さん、サブリーダーの田中さんにはお世話になりました。田中さん、先頭で歩いていただき感謝しています。ルートファインディングしながらの長い道のり、お疲れ様でした！

那須朋美：

一人ではなかなか計画の難しい和名倉山。とても楽しみにしていました。秩父での前泊もあり、朝は余裕の準備もでき体調も万全でワクワクが止まりません。暑さとルート確認をしっかりと頭の中で思いながら 5 時 30 分予定通り登山開始。歩きはじめ、想像していた登山道とは違い道しるべもしっかりあり、足元もきれいで歩きやすい急登。急登を登り終えても緩やかとしっかりの登りが続きましたが、十分な休憩をと水分をとりながら、ルートを確認しながら、バテ気味な古川さんを気にしながら、登り 6 時間半下り 5 時間楽しく歩き切りました。途中登山道が崩壊していた場所もありましたが、水場あり、苔むしてる古道あり、沢山のハエとのふれあいありの充実した 1 日でした。何事もなく無事に帰れた事に古川さん、田中さん、生田さんに感謝です。ありがとうございました。次の日からの筋肉痛は結構きつかったですが「和名倉山」次もありかなと思いました。

田中麻志帆：

和名倉山は往復１０時間のコースタイムで、久しぶりの長時間の山行ということと、今回初めて SL を任せていただき、先頭を始めて歩いたので、とても緊張していました。事前に古川さんから SL に必要なことをご教示いただき、色々と気をつけながら歩きました。和名倉山は想像していた以上に登山道が整備されており、急登ではあるものの、歩きやすい道でした。途中、わかりづらい道もありましたが、皆さんに助けていただき、無事に登ることができました。登山者もほとんどいなかったため、自然と向き合いながら歩くことができました。山頂付近の苔はほんとうに綺麗でそれまでの疲れが吹っ飛びました。最後まで歩き切れたのは古川さん、生田さん、那須さんのおかげです。本当にありがとうございました。

【山行報告】奥武蔵・兵の沢（ヒョウノサワ）

山行委員　竹下智子

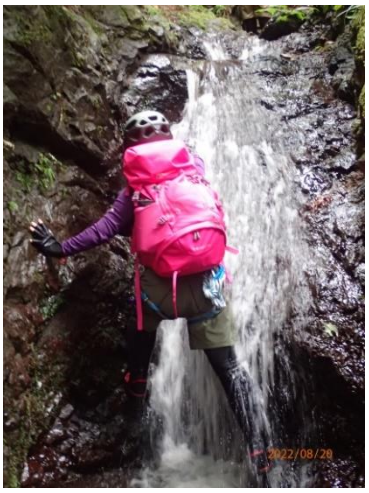
◆日程：2022 年 8 月 20 日（土）
◆場所：奥武蔵・兵の沢（ヒョウノサワ）
◆参加者：轟涼（ＣＬ）、竹下智子、坪井沙也子
◆行程：芦ヶ久保・道の駅 9：00 集合
芦ヶ久保・道の駅出発 9：05―入渓点 9：20 身支度をして入渓点出発 9：45―林道合流（終了点）着 11：30―下山（芦ヶ久保・道の駅）12：00

兵の沢は、ロッククライミングで有名な『二子山』と同じ名前の里山、二子山（雌岳 882.7m~雄岳 882.8m）に登るハイキングコース沿いにあります。本格的な沢登りをする沢ではありませんが、入渓点までのアプローチまで短いことや登山道が並行していること、小滝が連続しているので、初めの一歩にちょうどいい沢だと思います。

今回は、下見と同じ顔ぶれの三名、天気も同じ曇り、気温もほぼ同じの蒸し暑さでした。芦ヶ久保駅そばにある道の駅『果樹園公園　芦ヶ久保』で身支度を整えて出発しました。西武線のトンネルをくぐり抜けて、最初はちょっときつめ坂道のハイキングコースを十五分ほど歩くと、入渓点が見えてきます。ここでハイキングコースから外れます。沢脇の比較的広く平坦なところに降りて、ヘルメットをかぶり、ハーネスをつけ、沢靴に履き替えました。いよいよスタートです。

と、下見と同じと侮ることなかれ。下見から一か月ほどの間に台風が通過したからでしょうか、沢の様相が変わっていました。もちろん、沢の筋が変化していたなどといった大きな話ではありませんが、倒木や押し流された岩、山から流れ込んだ泥等により、幾分、野性味が溢れる沢になっていました。苔のヌメリも、下見のときとは違いました。転倒しないように気を引き締めて、歩きました。水温は冷たくありません。水量はほどほど、水深は足首程度から一番深いところでも膝より上くらいまでです。蜘蛛の巣を払いながら、足の着面に気を配り、手の置き場を探します。腰くらいまでの落差の小滝や倒木を乗り越えて遡行しました。

今回は先頭を交代制としたので、先頭として浮石や水流を見極めて判断し、安全かつワクワクできるコースを選んで進むことは貴重な経験でした。



しばらく行くと、沢が二股になっています。そこで道を左にとり、身長以上の落差がある小滝を三つほど乗り越えたら、終了点になります。下見ではロープを使い苦戦した滝も、奮闘してロープなしで乗り越えることができました。

今回は終了点にて一度沢からあがり少し下山し、懸垂下降で再び沢に戻りました。そして遡行し、三つの滝を超えて終了点に着いたのをゴールとし、本当に沢からあがり下山しました。全行程は三時間くらいでした。途中、沢登りはひと組、ハイキングコースを登っている方とは数組、出会いました。

ゴルジュから見上げる森で視覚を、沢の匂いで嗅覚を、水飛沫や苔、岩で触覚を、水の音で聴覚を刺激され、山の変化や自然の力を堪能できる山行でした。

おまけで、下山後、隠れ家カフェでランチ。カフェからの眺めと、料理、デザートの美味しいことといったら…。何回行っても楽しい沢です。

【山行報告】８月度月例山行「会津駒ヶ岳 2,133m」

山行委員　朝井紀久子

＊日　程：２０２２年 ８月２７日（土）

＊場　所：福島県　会津駒ケ岳　2,133m　（日本百名山）

＊参加者：奥村一江、那須朋美、行方真由美、萩原みか、小玉和孝、
朝井紀久子(SL)、稲越洋一(CL)　計 7 名

＊天　候：晴れのち曇り、気温 16 度、多湿、風少ない
（眺望：山域や近景は見渡し良好～徐々にガス発生あり。遠景は霞みや雲あり。）

＊行　程：(5:30 会津駒ケ岳登山口バス停前に集合)　5:45 滝沢登山口から登山開始　→
7:20 水場 7:30 → 9:15 駒の小屋 9:30 → 10:00 会津駒ケ岳山頂 10:15 → 山頂下の花畑を下りながら見て、巻道にて小屋方面へ戻る → 10:45 小屋下分岐のベンチで昼食 11:10 →
12:10 水場 12:30 → 13:45 滝沢登山口　下山　（行程総時間 8 時間、標高差 1,079m）

山深い場所にて、集合場所へは、夜行電車＋バス、車中前泊など、各自がそれぞれアプローチしました。前日までの雨天予報で催行状況も心配されましたが、思いがけない朝の青空に、皆の笑顔がこぼれました。

皆が稜線歩きを楽しみに、まず登り始めは樹林帯のやや急登です。最近の雨続きで予想どおりの多湿の中、30 分から 1 時間おきに立ち休憩、途中の水場で座位休憩など体調を調えました。

山行の様子

▲ブナ樹林帯を登り始める

▲駒ノ小屋から山頂方面

▲木道（小屋方面から）

▲駒ノ小屋（山頂方向から）

花々など

▲ハクサンコザクラ

▲アキノキリンソウ

▲キンコウカ

▲チングルマ

▲ニッコウキスゲ

▲オヤマリンドウ

山行の様子

▲会津駒ケ岳（山頂）

▲山頂付近の花畑

花々など

▲イワイチョウ

▲オニアザミ

▲ワタスゲと
アキアカネ(雌)

▲ヒヨドリバナと
アサギマダラ

いよいよ稜線へ出ると、美しい黄緑の山容と、先へ繋がる木道の美しさ。その中を歩きながら、所々に生える高山植物に目をやりました。

駒ノ小屋がランドマークとして見え、トイレ休憩も行えました。その後、池塘の横を通りながら山頂を目指します。

山頂は広くはないのですが、本来 360 度の展望で群馬・新潟・福島・栃木の山々が望めるようです。この日は霞みや雲にて遠景の山々は正確には確認しきれませんでしたが、まず隣の尾瀬にある燧ケ岳が、山頂二つの嵓の形と共にはっきり目に入りました。

山頂先の中門岳方向へ下り、山頂付近の花々をしばらく鑑賞。今年の夏花のピークはお盆前後かとも思われますが、月末もこの時期ならではの風景を味わえました。充分満喫後、午後からの雨予報に備え早めの下山を意識し、ペースを落とす事なく無事下山できました。

～参加者の感想～

【那須朋美】

当日の雨が心配される中での山行でしたが、終わり良ければ総て良しの最高の 1 日でした。
駒ケ岳登山口からの徒歩 30 分の車道の道のりを短縮できたのも、ゆっくり花々を見ながら散策できたのも前日までの雨予報のお陰だったと思います。
水場までの急登は登山の醍醐味として楽しめ、水場から先の緩やかな登山道を抜けてからの池塘、湿原、山頂と青空のコントラスト、頂上付近から見えた燧ケ岳と駒の小屋の景色は絶景でした。

【小玉和孝】

直前まで雨予報だった為、登山者も少なく大変快適な登山でした。頂上近くの湿原には、夏の花(ニッコウキスゲ)、秋の花（リンドウ）などが混在して季節の変わり目を感じることが出来ました。
リーダーさん、サブリーダーさんの事前の下調べのおかげで、アクセス、登山ペース、小・中休止場所等適切で、大変スムーズな山行でした。お疲れ様でした。今後とも皆さんとの山行に参加したいと思いますので宜しくお願いします。

【行方真由美】

朝 5 時夜が明けた空にはうっすら青空も見えていました。標高差 1000 メートル、行動時間 8 時間が始まりました。小雨の中歩くのを覚悟で参加したのですが、雨に降られる事もなく時折青空の覗く、清々しい空気の中歩けました。秋を感じるリンドウも咲いていましたがワタスゲやチングルマ、ニッコウキスゲなども見られ季節の移り変わりを感じました。一部木道は滑りましたが湿原は霧も晴れて燧ヶ岳や日光白根山や稜線も見渡せて気持ち良くそれまでの急登を忘れるほど素敵な景色でした。休憩時には参加されたメンバーとの会話も楽しかったです。山頂を降りた後、駒の小屋付近でのんびり景色とトンボなどを眺める時間は貴重な思い出になりました。稲越さん、朝井さんの下見の目の付け所もバッチリで随所に気配りをして頂きありがとうございました。

【萩原みか】

会津駒ヶ岳の山行は近頃の天候不順のため、判断する事柄が多かった。そもそも行き先が上高地の焼岳の噴火警戒レベルが上がって中止になったところから始まる。しかし CL SL の念入りな下見段階からの情報の収集と提供のおかげで判断材料が十分すぎるほどでした。本当に感謝します。予想に反して山行当日は天気に恵まれ、また事前情報を満タンにしてあったせいか、いつになく気持ちに余裕が生まれ、山行の歩行スピードに注意を払う事が出来た。スピードのコントロールに関しては CL から細かいレクチャーもあり、疲労の軽減を実感。余裕ができると同行者の皆さんとコミュニケーションをとる事ができ、楽しく、たくさんの糧を得る機会になりました。

【奥村一江】

今回の山行は思ったより天気が良くて暑かったですが、色々な種類の花や普段は見ない種類のトンボや蝶を見ることができ、登りでは眺めも良くてとても楽しかったです。私以外は山行委員であったため追いついていけるか不安でしたが、何とか下山できてホッとしました。山行後は、ゆっくり温泉に入り、山椒魚の燻製も買えて嬉しかったです。ありがとうございました。

【CL 稲越洋一】

８月山行は当初の焼岳登山が警戒レベルアップのため中止となり、その代替として 2020 年にコロナの影響で中止となった会津駒ヶ岳が選定されました。盛夏の時期の高山植物も期待したとおり楽しめ、なにより前日までの雨予想が、午前中は青空いっぱいの好天での登山となりました。参加した「晴れ女」（さてどなたでしょうか？）の方々に感謝です。次回もご一緒したいですね。

【SL 朝井紀久子】

皆さんと楽しく行けて嬉しかったです。また今回は担当の役割の中で７月下見と８月本番の１ヶ月少々の間に、雪渓から花の移り変わりと、その豊かな表情に感動しました。麓には温泉や宿も豊富で、山は周りに燧ケ岳や平ヶ岳などの百名山や尾瀬もあり、魅力溢れる山域である事を知り得ました。次の機会が有れば、更に細かく花時期を狙ってみたり、麓の一泊も面白そうです。

【山行報告】埼玉５０山「武甲山・子持山・大持山　1,304m」

山行委員　生田詳子

1.　日 程　2022 年 9 月 10 日(土)

2.　山 域　秩父・武甲山、小持山、大持山

3.　行程

武甲山御嶽神社一ノ鳥居(8:00)→十五丁目登山口(8:30)
→武甲山(10:00)→子持山(11:37)→大持山・昼食(12:20)
→妻坂峠（13:40)→武甲山御嶽神社一ノ鳥居(14:15)
歩行時間:約 6 時間

4.　参加者 5 名（女性 5 名）

早朝7時半に横瀬駅に4名集合しタクシーにて一の鳥居に向かった。一人は現地集合で合流した。

一の鳥居のトイレはきれいに改装され、スマホの電波も入った。支度をして予定通り出発した。

雨は降っていないが、ガスが立ちこめていた。

しばらく川沿いを歩き不動の滝に到着すると、水の入ったペットボトルがたくさんおいてあった。

山頂のトイレのための水を運んでもらうためらしい。小さめなのを選んでザックに詰めた。

天気は予報通り曇り。寒くもなく暑くもなくちょうど良い温度で、歩きやすい登山道を登った。時々祠のようなものがあり風情がある。

2 時間ほど歩き、山頂下の神社に到着した。持ってきたペットボトルの水をマンホールの中に流した。

山頂はやはりガスの中で展望は望めなかった。写真撮影して昼休憩を取った。

その後子持山から大持山までアップダウンのある道を歩き、妻坂峠まで下った。そこで帰りのタクシー会社に電話し、迎えのタクシーを手配した。タクシーが時間通りに到着し、解散した。

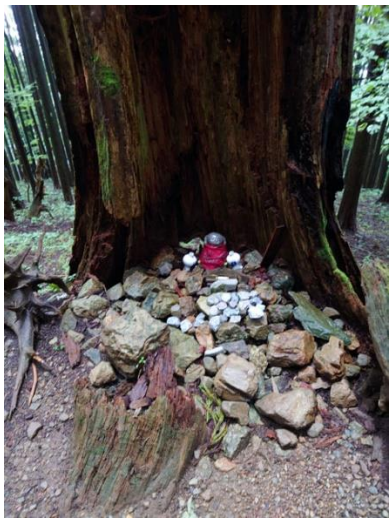
ほどほどに手が入り明るい登山道で、改めて良い山だなあと思った。

参加者の方々が皆さん楽しんでいたようだった。リーダーの田中さん、お疲れ様でした。

武甲山

出発

祠



祠

武甲山　山頂にて

【山行報告】９月度月例山行「立山（浄土山・立山・真砂岳・別山）」

山行委員長　轟　涼

登山報告（車中 1 泊テント 1 泊 3 日）グレード☆☆☆健脚向け

日程：9 月 23 日深夜バス 23：00 発 24 日 8：00 室堂着～25 日 12：30 室堂発バス

参加メンバー：CL 轟・SL 生田・SL 田中・行方・萩原

台風通過のため太平洋側が大荒れ予報でしたが､アルプスに守られた日本海側は何とか行けそう、最悪「悪天候でのテント泊講習＆室堂でまったり」もありと、バスのキャンセル料があがるギリギリとヤマテンの予報を睨んでの決行！としました。

スピード重視のため、テント設営や諸々の仕度は時短で出来るようにが今回の目標ともなりました。ザックを軽くもテーマです。

当初､テントを背負っての縦走を企画しましたが､女性 5 人がメンバーで初心者も多かったため、テント設営後アタックザックで立山三山を巡ることに変更し、ルートもいろいろ検討し天候と相談しながらエスケープルートも考えて、下記のような計画書を提出したのは 22 日でした。

大汝山でレスキューのヘリコプター待ちを 30 分ほどしたためテント場への到着は 16：51。迫力のレスキューを間近に見たり、ペース配分を変えたり、キャンプ場近くでブルーベリー野生種を堪能したりと盛沢山だったことを考えると、ほぼ予定通りに歩けました。

25 日は、浄土山ピストンとしてバスに乗り遅れず室堂でゆったりランチを取ることに。温泉は残念ながら諦めました。龍王岳はカット。登り始めて 30 分ほどで、浄土山稜線に登る太陽に何重もの虹と、珍しい彩雲を見ることができました。超ラッキーでした。

全体としては、天候にも恵まれ、仕度はサクサクと目標通りにでき、別山は来年の宿題としましたが、達成感たっぷりの山行となりました。

【提出した立山三山縦走計画書】

24 日 8：00 着室堂～9：00 雷鳥沢キャンプ場ーテント設営 9：00～12：00 一の越～13：10 雄山～13：50 大汝山 14：10～富士の折立 14：30～15：00 分岐～16：20 雷鳥沢キャンプ場

25 日雷鳥沢キャンプ場 6：00～7：00 室堂でデポ 7：30～9：00 浄土山 9：20～龍王岳 9：45～11：00　10：36 室堂 12：30 発

雄山への道から振り返り

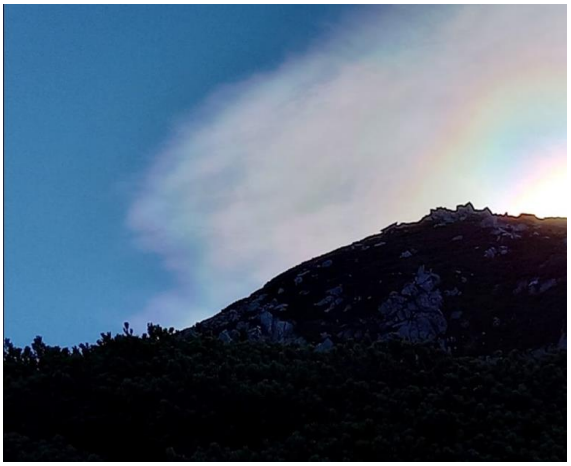
立山雄山神社前にて全員で！

消防のヘリコプター

まだ残る雪渓、真砂岳の手前

マイスィートホーム？５張り

雷鳥沢キャンプ場にもお別れ！



彩雲です！！あっという間に消えました

浄土山から登る太陽。丸い虹～！！

通り越してしまった浄土山。
ケルンのみ指さす方に、剱岳

室堂到着！達成～～感～！！
雄山～大汝山～富士の折立までもくっきり！

立山テント泊縦走に参加して（感想）　　山行委員　萩原みか

今回は終始『自分のいつもの枠を超える』チャレンジだった。テント泊なんてと、挑戦したいが不安が。葛藤の末に、少人数で尚且つ知った顔ぶれでの支部山行ならと参加を決めた。装備の重さ、悪天候、不安と後悔が増大していく。いけない、いけない！これではいつもの自分の後ろ向きパターンだ。準備に装備の軽量化を試行錯誤する。テントの設営、撤収タイムを測ってみる。事前準備にいつもより前向きに取り組んで不安を払拭した。

台風の影響が懸念され 3 日前からキャンセル料が発生する。参加者で話し合い、結局小雨決行、雨のテント泊も経験だと腹をくくった。もう後には引けない。

当日、関東では雨。翌日も台風の影響でひどく大雨だったそうだ。夜行バスで室堂に到着すると、予想に反して台風一過の雨上がり。滞在中ずっと晴天に恵まれ、テント泊の夜は天の川までがクッキリの星空であった。少しだけ紅葉した初秋の立山の景色は絵葉書の様だった。最大の不安要素は呆気なく取り除かれたわけだ。

しかしながら 2 日間の山行は不調だった。チームの歩行ペースを落としてやっとの縦走完遂。こんなはずではなかった。前回の山行から 1 ヶ月間が空いてしまったせいか。最大の要因は夜行バス

である。狭い席で身動きが取れず身体が固まってしまったのと、トイレ事情で水分を控えたからと思われる。

1 日目、下車後からテント装備を背負っての下りで既に両脹脛が攣りそうになった。初めて攣り予防の薬を服用して縦走をスタートしたが、高山病か？シャリバテか？調子が出ない。急登の岩場を登るのがいつになくとても苦しかった。休憩し水分補給し行動食を摂るが変わらない。撤退の文字が頭をよぎる。すっかり心が折れていた。

地図もあるし、ルートは把握してあるので、立山雄山登頂は諦めて、自分だけ室堂ターミナルに向かいテントを設営してある雷鳥沢キャンプ場に 1 人で戻ると申し出たが、それではチーム登山にならないとあえなく却下。メンバーの励ましで、折れた気持ちを何とか立て直す。歩行ペースを落とす、なるべく止まらない、岩場の姿勢に気をつける、視線を落とさない、呼吸を細く長く吐く…数々のアドバイスを受けて雄山はやっと登頂できた。

チームの皆さんのおかげだ。3000m 超えの百名山の登頂達成は感無量でした。あとは多少のアップダウンと長い下り。大汝小屋横でヘリコプターによる病人の遭難救助があり、足止めをくらう。間近で救助の終始を見たのは初めてであった。

この思わぬ長めの休憩でやっと復調できた。富士の折立からは長い長いザレた下りが続いた。下りの歩行の注意点をおさらいしながら、疲れた足取りでも注意が途切れないように気をつけて無事に下山できた。

黄昏の美しい立山に囲まれての夕食。楽しく一日を振り返って、話にも花が咲いた。寒さもさほどでもなく、テント泊は殊の外快適であった。

2 日目の浄土山ピストンは再び岩場で、2 本のポールが邪魔で苦労した。ここで CL の片側ポールの岩場歩行のレクチャーを受け、安定した岩場の通過方法を教えていただき、体感してやっと要領を得た。

今回は、自分の経験値の浅さから想定出来なかった事を、経験値の高い同行者によって助けていただいた。登山経験値は場数を踏んで積むしかないが、しかし初級者だけで登山を数こなしていても、とらわれている枠や限界があるなと常々感じていた。

チーム登山は経験値の高い人の知識と技術を初級者が学び得る絶好の場であり、安心してチャレンジ出来る土台である。今回の支部山行はまさにその場であり機会でした。同行の皆様に心から感謝します。

【山行報告】四季の山・秋山山行「甲斐駒ヶ岳(2,967m)・仙丈ヶ岳(3,032m)」

山行委員　生田詳子

１、期　日：2022 年 10 月 1 日（土）～2 日（日）

２、場　所：甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳

３、登山コース

1 日：仙流荘から出発するシャトルバスに乗車（５時半発）

＜ 歩行時間 7 時間 36 分　休憩時間 1 時間 55 分＞

6：25 北沢峠～8：20 双児山～9：21 駒津峰～11：18 甲斐駒ヶ岳～北沢峠こもれび山荘 15:57 到着

2 日：＜歩行時間約 7 時間 14 分　休憩時間 1 時間 33 分＞

5：44 こもれび山荘～小仙丈ヶ岳～10:38 仙丈ヶ岳～馬の背ヒュッテ～大滝ノ頭五合目～14：30 北沢峠

４、参加者５名（男性３名女性２名）

早朝 4：30 に仙流荘に集合した。もうすでに、シャトルバスを待つ長い行列が出来ていた。小玉さん達が、2：30 に到着していたようで、列に並んでいてくれて、5：30 のバスに乗ることができた。バスに乗り、こもれび山荘に到着した。山小屋に荷物を預け、アタックザックで甲斐駒ヶ岳に出発した。

最初は樹林帯の中を歩き、まもなく展望が開けて北岳が見えてきた。双児山・駒津峰とアップダウンを繰り返すと甲斐駒ヶ岳が大きく見えてきた。山頂手前で直登コースではなく、迂回ルートを歩いた。

山頂に到達すると、景色は雲一つ無い良い天気だった。集合写真を撮り休憩した。

下りは再び迂回ルートを下り駒津峰から仙水峠へ、沢沿いを歩いた。

二日目は仙丈ヶ岳へ。この日も天気に恵まれた。藪沢大滝の頭を目指し樹林帯を登った。樹林帯を抜けると小仙丈ヶ岳が見えてきた。さらに登ると仙丈ヶ岳が見えてきた。稜線上を気持ちよく登った。山頂に到着し、集合写真を撮り休憩した。景色は本当に最高で、中央アルプスはもちろん、富士山、御嶽山、乗鞍、表銀座、槍穂高、鹿島槍、五竜、白馬三山等観察できた。写真を撮り過ぎてしまった。

下りは仙丈小屋経由で少し休憩した。小屋の目の前には仙丈ヶ岳のカール、三日月型のモレーンに紅葉が美しく見惚れてしまった。その後さらに下り、馬の背ヒュッテで休憩し、川を渡って藪沢大滝の頭に戻ってきた。その後しばし歩き登山口に到着した。

予定より早いシャトルバスに乗り、仙流荘の温泉に入り、解散した。

今回、二日間とも天気に恵まれ忘れられないほどの景色を見ることが出来た。よい山行だったと思う。

【参加者　感想文】

古川史典

夏と秋の境紅葉には早め、年に数回あるかどうか絶好の晴天と人の波にのみこまれた 2 日間でした。SL の小玉さん生田さんのご苦労で楽しい「安全安心な登山」ができました。

小玉和孝

仙流荘前バスターミナルは登山客で大混雑でしたが、下見の教訓を生かして 1 番のバス（5 時 30 発）で出発することができ、上々のスタートを切ることが出来ました。好天にも恵まれ、行程はほぼタイムスケジュール通りで無事終了することが出来ました。また、前回登山時にガスで全く見ることができなかった甲斐駒ヶ岳からの素晴らしい眺望が収穫でした。

今後も皆さんと一緒に山に登りたいと思いますので宜しくお願いします。

山﨑保夫

念願の甲斐駒仙丈ケ岳にやっと来ることができて感無量です。

天気が良く素晴らしい山々を見ることができました。

町田美春

秋晴れの晴天の中、甲斐駒ヶ岳と仙丈ヶ岳山行に参加させて頂いた。甲斐駒ヶ岳はザレ場、ガレ場、登り返しがきつかったが登りごたえのある山で楽しかった。仙丈ヶ岳の稜線歩きはとても快適だった。紅葉には少し早かったが、どちらの山も圧巻で感動的だった。お世話になった皆様に感謝です。

【山行報告】10 月度月例山行「奥多摩・高水三山」

山行委員　田中麻志帆

秋らしい気候の中、奥多摩のハイキングコース、高水三山を登りました。
高水山付近にある常福院には、カエデやコナラに囲まれてた立派な不動堂があり、これからが紅葉シーズンでしたが、秋が始まったような雰囲気を感じることができました。

今回、10 名でしたが、みなさんの足並みも揃い、メンバー間での交流を楽しみながら、山行を楽しむことができました。

1、日　　程　　10 月 22 日（土）日帰り
2、場　　所　　奥多摩　高水三山（1304m）
3、参加者
　田中　麻志帆（CL）、東　洋子（SL）、三國　志保、大野　国光、林　信行、渡邊　泰子、
　稲越　洋一、立原　由子、町田　美春、吉田　湖恵
4、コースタイム
　軍畑駅(8:30)→常福院・高水山(10:30)→岩茸石山(１１:00)→惣岳山(12:00)→御嶽駅(13：30)

常福院・高水山

高水山山頂

岩茸石山山頂

惣岳山山頂

「高水三山」山行に参加して（感想）　　会員　三國志保

集合場所の軍畑（いくさばた）駅は、急な坂道を登ったところにある小さな無人駅ですが、JR 青梅線の下り電車が到着すると、登山客が 40 人くらい降りてきて急に賑やかになりました。今日のメンバーが勢揃いしたところで、高水山を目指し歩き始めました。

気温 20℃の薄曇りの天気でしたが、風はなくとても過ごしやすい気候でした。10 月下旬とはいえまだ紅葉は始まっておらず、青々とした森林を楽しむ登山でした。

低山とはいえ、高水山、岩茸石山、惣岳山の三つの山の縦走なので、アップダウンが多く、途中、岩場があったり木の根に足を取られそうになったりと、けっこう体力のいる山行でした。

岩茸石山の頂上からは奥武蔵方面の山並みがよく見えて気持ちよかったです。

惣岳山で昼食休憩後、御嶽駅まで下山し、青梅線に乗って軍畑駅へ戻りました。

紅葉の時期は、また違った景色を見ることができるんじゃないかなぁと思いました。

みなさん、お疲れ様でした！

【山行報告】2022 年度　清掃登山「宝登山」～社会貢献委員会
副支部長　中嶋信隆

2022 年度の清掃登山は前年度までの山行委員会から社会貢献委員会へ移管されての初の行事となり 10 月 30 日（日）行われました。

参加募集案内も早くから支部員全員へ差し上げておりましたがなかなか参加人員が集まらず、2 度目の案内をだし最終的に 14 名となりました。

従ってバスも従来の中型バスからマイクロバスに変更しての出発となりました。

参加者名簿（順不動）

山崎保夫　浅田　稔　中嶋信隆　右川清夫	以上春日部乗車
松本敏夫　稲越洋一　野口勝志	以上北本乗車
吉田寛治　高橋　努　立原由子　林　信行	
奥田通孝　松尾　渡	以上若葉乗車
宮崎　稔	現地参加

以上 14 名で例年より参加者が大幅に減となりましたが当日の見事な快晴と紅葉が見ごろを迎えているのではとの期待感あふれる車中でした。

途中の 3 番目の迎車の地、若葉では幹事の不手際から西口と案内しながら昨年と同じ東口に着けてしまい、急遽西口へ回るという事件もありましたが、高速の大渋滞も関係なく一般道を順調に走り、さらに地元参加宮崎さんから長瀞近辺の渋滞案内を的確にいただき当初の到着地より手前の広場に着けることができました。

小休止とトイレタイムを入れて気持ち良い秋晴れとさわやかな風の中、いざ出発です。

皆さん笑顔で最初の休憩地である氷池を目指しました。30 分ほどで氷池到着、数日前の下見の時にはなかったコンクリートの池には水が張ってありました。いよいよ来年用の氷作りが始まったようです。長瀞名物かき氷が楽しみですね。

ごみも少なく古い缶、瓶、紙類が多くはありませんが落ちていました。皆さん笑顔で楽しく声を出しながらの登山道を進んで行き、少し傾斜がきつく荒れた道を進むと 20 分ほどで長瀞アルプスの氷池分岐です。

小休止を入れここで現地参加の宮崎さんと合流、ここからは整備された登山道で残念ながらごみ類は全く目立たなくなり登山者のマナーも良くなってきたようです。

何組かの長瀞アルプス登山者と行きかいながら林道と宝登山山頂の分岐に到着しました丁度時間も昼食時間の 12 時を回ったばかりで目的地の宝登山山頂まではあと 600m で最後の急な階段です。

「山頂で昼食ですよ、頑張って下さい」と皆さんに最後の気合を入れて約 30 分の頑張りをしていただきました。

山頂は紅葉シーズンと言われながらそんなに観光客もおらず、ゆっくりと昼食を楽しみ最後は恒例の JAC 旗を囲んでの記念撮影です。

後は宝登山神社駐車場までの 1 時間の下りだけです。

皆さん足も軽く本当に楽しんでの山行の様子、そしてケガする方もなく幹事は安心しました。

駐車場では集めたごみを集めましたが昨年よりも大幅に少なく、宝登山という人気の地でありながらマナーが良くなっていることに安心しました。

駐車場では解散の言葉と現地の宮崎さんと別れの挨拶をして一路各乗車地までバスは向かいました。ここで宮崎さんからのお土産で大きな 2 つの袋に入った朝の採りたての柿を分けて飲み物を飲みながら、心地よい日差しの車中で疲れが出たのか寝ている方がほとんどでした。

2022 年度の清掃登山お疲れ様でした。

次年度はもっともっと多くの支部員の参加に期待しつつ終わりといたします。

【山行報告】11 月度月例山行「荒船山」

山行委員　朝井紀久子

＊日　程：２０２２年　１１月５日（土）
＊場　所：西上州（群馬県／長野県）　　荒船山　1,423m　　（日本二百名山）
＊参加者：稲越洋一、立原由子、行方真由美、萩原みか、磯崎佳奈、橋本久子、
　　渡辺徹也(SL)、朝井紀久子(CL)　　計９名
＊天　候：晴れ、気温山頂 6 度、風は概ね少ないが頂上で少し強め
　　（眺望：山域や近景は見渡し良好。遠景は少し霞みや雲あり）
＊行　程：　8:45 内山峠登山口(登山開始)、→ 9:30 鋏岩修験道場跡 →
　　10:10 艫岩 → 11:07 経塚山(山頂) → 11:55 艫岩(昼食)12:20 →
　　13:05 鋏岩修験道場跡 → 13:47 内山峠 登山口（下山）　　（休憩含め約５時間）

荒船山は、荒波を削って進む巨大な船を思わせるその特異な山容から名付けられたと言われており、西上州方面を通る際にも視認しやすい人気の山です。

山は、紅葉期にて現地の駐車場が混むと予想し、集合時間を当初計画より早めて川越駅西口に全員集合し、ほぼ定時に出発しました。関越自動車道、上信越自動車道経由で、荒船山登山口の内山駐車場に着きましたが、予想以上の混みようです。やっとのことで車を停め、予定より 30 分遅れての登山開始となりました。

修験道場跡に着き、辺りの紅葉や黄葉を眺めながら、給水で一息つきました。

初級の山ながら､道中に少し岩っぽいところやロープ、はしごが設置され、注意を要するところがあります。

展望が開けたところに出て、傾斜がゆるやかになり、暫らく歩いて艫岩（ともいわ）の展望台前に到着。登山日和の天気に恵まれ、少し離れた谷川岳までは見えませんが、近くの浅間山、続いて四阿山は、よく見えました。艫岩は、眺めが良いあまりに前に出過ぎ、転落する事故が時折起きているようです。注意の看板は立っていますが、柵はありません。ここで暫し眺めを楽しんだ後に、荒船山最高点の経塚山へ向かいます。山上大地の上を南へ 20 分ほど進むと、経塚山への登り口に着きました。ここから右へ行くと、星尾峠を通り、荒船不動方面への道です。私達は、少し急になった道を経塚山へ進みます。

（艫岩より撮影。西上州麓一面の紅葉に、荒船山の平台山容の陰影が映っています）

経塚山山頂へ 11 時過ぎに到着。山頂はまばらな立ち木に囲まれ、展望は良くありませんが、風があり気温が低かったので給水休憩のみとし、艫岩でお昼をとることにし下ります。荒船山の上は、経塚山以外は、平らな大地のようで起伏が少なく、ペースが上がります。

艫岩で、少し長めの休憩を取り、各自持参のおにぎりや弁当を食べます。山では意外な出会いがあります。稲越さんは元会社の後輩と出会い、しばしの歓談をされていました。

艫岩からの眺めに名残りを惜しみながら下山開始です。急なところは、下りの方が注意を要するので、慎重に降りました。

無事に内山峠の駐車場にほぼ予定時間に到着。車に乗り、帰りの道中にある荒船の湯で汗を流しました。道の駅しもにたにも寄り、トイレ休憩と思い思いの買い物をし、帰路に。関越自動車道は、やや渋滞は有ったものの、思ったより、早く川越駅に着き、ここで解散しました。移動手段は、下仁田駅からの交通の便が少ないので、川越駅から自車とレンタカーの計 2 台でした。

１１月月例「荒船山」山行　（参加者からの感想文）

稲越洋一：

若い頃(山を始める前)、趣味のバイクで西上州の 254 号をカッ飛んでいると目に入るのが「艫岩」の大岩壁でした。あの上に登れるのかなぁ、などと思ったかどうか判りませんが(笑)、登山欲をそそる山であることは確かです。新緑の頃も良し、山そのものの紅葉の時期も良し、そして初冬の雪化粧した浅間山を始め北アルプスまでの眺望を、艫岩のテーブルマウンテンでゆったりと楽しむ。こんな楽しみが出来る山ですねぇ。

立原由子：

前日雨が降り、当日の朝は曇っていましたので　少し心配だったのですが、内山峠から歩き出すころには心配はなくなりました。荒船山は、私は初めてで、調べたら岩がすごく不安だったのです。しかし思ったよりは急な箇所もなく、山頂から降りるとき滑りやすい箇所があり、ヒヤッとしましたが、ストックを使い大丈夫でした。艫岩は台地のようで山とは思えないようでした。荒船の湯で疲れも流し、楽しい山行でした。レンタカーを借り、また車を提供され、運転して頂きました方には本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

行方真由美　：

艫岩の断崖絶壁から広がる山々の紅葉の景色は遮るものが一切ない素晴らしい景色でした。お天気と、山行を共にした方々と、山行担当の方々のおかげで楽しい１日ありがとうございました。

萩原みか：

山容が特徴的な荒船山は鎖場梯子では気を引き締めて緊張。真っ平らな台地では晩秋のハイキングを満喫。艫岩からの絶景は、浅間山に周りの山々の紅葉と、遠くに見える雪を被った白い山々が青空に映え見事で心躍った。紅葉真っ盛りの山行は混雑が予想され、集合場所時間、道路渋滞予測、駐車場問題など検討事項がより多く苦慮されたと思います。担当者様ご同行の皆さまありがとございました。

町田美春：

秋晴れの中、紅葉も深まる荒船山山行に参加した。独特の山容を放つ荒船山にいつか登ってみたいと思っていた。断崖絶壁、鎖場もありながら山頂は平坦で、本当に山の上？と思いながら歩いた。帰りは荒船の湯で疲れを取り帰路に着いた。

磯崎佳奈：

紅葉が綺麗な秋の荒船山を満喫させていただきました。私にとっては技術的にやや高めだったのですが、なんとか無事帰る事が出来ました。自信がちょっとつきました。ありがとうございました。

橋本久子：

初めて登る荒船山は車中からもその不思議な山容が目を引く魅力的な山でした。

多少の岩場はあるものの全体的には落ち葉降り敷く足に優しい登山道で、若い会員の皆さんと足並み揃えて歩けたことが嬉しかったです。高度感のある艫岩から覗きみた色とりどりの紅葉の美しさが忘れられません。車出し、そして運転をしてくださった渡辺さん、朝井さん、稲越さん、本当にありがとうございました。

朝井紀久子（ＣＬ）：

荒船山は以前から行きたい山でしたが、今回担当させて頂く中で、下調べの段階でも色々多角的に知る事が出来て本当に良かったです。その過程で今回ＳＬの渡辺さんは、意欲的な提案、行動的な下見など、そして一緒に沢山話し合って下さり、本当に楽しく、とても感謝です。そして本番には参加者皆さんと好天の中で楽しく行けて心から感謝でした。西上州の山はまた魅力たっぷりです。

渡辺徹也（ＳＬ）：

荒船山は、40 年も前の若い頃に、登っただけで、朝井さんと一緒に担当しないかと話があった時は、山の様子が中々頭に浮かびませんでした。

紅葉も観られ、参加の方々とも、思い出深い登山になりました。

【自然保護委員会】夏の白馬岳植物観察山行

自然保護委員　渡邊泰子

所属する自然保護委員会の立案で行われた、白馬岳植物観察山行に参加させていただきました。２８０種類以上の高山植物が咲き誇る憧れの北アルプス白馬岳。植物に興味を持ち始めていた私は、この山行の企画当初からずっと楽しみにしていました。

7 月 23 日、ホテル白馬にて前泊。翌朝 6：00 猿倉登山口からいよいよ登山開始。サンカヨウやトリアシショウマ、ズダヤクシュが咲いている。7：30 白馬尻小屋到着。そこには大きな葉と花が特徴である日本固有種のキヌガサソウの群落がありました。目の前には、急峻な谷に挟まれた遥か遠くまで続く大雪渓。壮大な自然に圧倒されました。軽アイゼンを装着し、私はリーダーのすぐ後ろにつき、踏み跡に自分の足を重ねました。ザクザクとした少し溶けかかっている雪の上を歩くうちに疲労が増してきましたが、途中の休憩で差し入れてくださったメロンや雪渓のかき氷のおかげで元気復活です。

雪渓が終わり、葱平に近づくとそれまでガスで真っ白だった視界が晴れ、行く先々に高山植物が姿を見せてくれるようになりました。色鮮やかだったのは、クルマユリやミヤマキンポウゲ、ミヤマコウゾリナ。ウルップソウは花期が終わりに近づいていました。所々、リーダーが足を止め時間をとってくださったので、じっくり花びらや葉を観察することができ、普段の登山にはない楽しさを満喫しました。15:00 白馬岳頂上宿舎到着。夕食までの間、山荘の周辺の植物観察です。周辺には、ハクサンイチゲやイワオウギが山の緑と対比し夏らしい爽やかな光景を作り出していました。

翌日 7 月 24 日、6：00 頂上山荘出発。7:00 白馬岳山頂到着。その後、小蓮華岳から白馬大池へ向かう長い稜線上歩きです。目前に広がる景色はとても美しく、３年前、山登りを始めていなかったらきっと出会うことがなかっただろう光景に感動しました。標高が高い為ハイマツは地を這うように生息しており、イブキジャコウソウ、ヨツバシオガマ、イワベンケイ、ミヤマアズマギク、ミ

ヤマクワガタは、荒地の厳しい環境にもかかわらず瑞々しく咲いていました。

高山植物は、なぜこんなにも色鮮やかなのか興味を覚え、後に調べてみると、その色の濃さには標高の高さや紫外線の強さが関係していることがわかりました。

11:00「船越の頭」通過。そこで素敵な出会いがありました。雷鳥です。初めて見る雷鳥は登山道の真ん中でコロコロと転がりお腹を見せながら遊んでいました（正確には、砂利でお腹についた虫をはらう行動だそうです）。いつか会いたいと願っていた愛らしい姿を目前に胸が高鳴りました。

12:00 白馬大池到着後、昼食。神秘的な大池の周辺にはイワイチョウ、ゴゼンタチバナの美しい群落。そこでは、一面に咲いていたチングルマの花から種に徐々に変化する珍しい形態を観察することができました。

14：30 乗鞍岳山頂到着、そこから栂池までの急峻な岩場の下りでは植物を見る余裕はありませんでしたが、ふと目線を上げた時、アカモノやミツバオウレンが可愛らしく咲く姿にホッとしたのを覚えています。天狗平ではワタスゲがフワフワと風に揺れ、標高が低くなるにつれナナカマドやダケカンバなどの樹木を多く目にするようになりました。

17:00 栂池ロープウェイ乗車。下山。濃い紫色の大きな松ぼっくりのような実をてっぺんにだけつけるオオシラビソを目にし、最後まで植物の生態に触れることができた山行が終了しました。

この山行で一番印象に残っている植物は、スウェーデンの植物学者カール・フォン・リンネ氏が命名したリンネソウという常緑小低木です。薄紫色の小さな釣り鐘の形をした花をつけ、登山道脇のハイマツの根元にそっと咲いている姿に惹かれました。

初めての白馬岳。好天に恵まれ、植物の名前や樹木の植生など多くを学び、かつ３０００m級の山にチャレンジできた自然保護委員会ならではの素晴らしい山行となりました。

渡邉自然保護委員長初め、リーダーの横山さん（メロン美味しかったです！）、ほぼすべての植物に関する質問に丁寧に答え解説してくださった龍さん、そして今回参加されたメンバーの皆様、終始楽しい時間を過ごせましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

【登山教室】指導者養成講習会　報告

山行委員　小玉和孝

会場：安藤百福記念　自然体験活動指導者養成センター

日程：9 月 17 日（土）12:30 ～ 9 月 18 日（日）15:30

＜内容＞

9 月 17 日（土）

①室内講習１：「最近の遭難事故と救助活動に学ぶ」

講師：石岡優士（長野県警察山岳遭難救助隊副隊長）

・遭難しない、生き残るための方策

地図読みのスキルアップ（事前学習、地図アプリの活用、高度計の活用）

エマージェンシート、ヘッドライト、レインウエア、携帯電話＋予備バッテリー、テーピングテープ及び非常食の携帯　＋　あきらめない気持ち

・コロナ禍の状況下での近年の山岳遭難事情

経験の浅い人が、低山に多く訪れ遭難件数が増加している。

コロナ防護対策を取りながら救助にあたるので時間も労力もかかる。

・実際の救助現場画像及び道迷い現場画像を使用した遭難事例

単独行動での遭難が多発している

事前準備が不十分なため遭難に至ってしまった。

②室内講習２：「登山のための健康トレーニング」

講師：斉藤繁（群馬大学付属病院院長）

・最近の中高年の活動意欲と山岳遭難の傾向

・登山という運動が引き起こす生理現象

登りと体、下りと体

・長く楽しく運動を続けるために

③室内講習３：「チームと自己を守るスキル」

講師：川瀬恵一（日本山岳会　遭難対策委員会担当理事）

・事故発生時の対処方法

・危険動物遭遇時の対処方法

・実技講習に向けた装備確認及びロープワーク練習

安藤百福記念　自然体験活動指導者養成センター

１Ｆカンファレンスホールでの講義

9 月 18 日（日）

実技講習：「チームと自己を守るスキル」

講師：川瀬恵一（日本山岳会　遭難対策委員会担当理事）

＜午前＞

・屋内で支点の確保、ロープの設置方法の講習

・危険個所を安全に通過するため、自然林に支点を確保（3 点）してロープを設置し、スリングをチェストハーネスとして使用してトラバースする講習（2 名 1 チームで実施）

屋内での実技講習（危険個所通過）

屋外での実技講習（危険個所通過）

＜午後＞

・立木に支点を確保し、ロープを使用して急斜面を滑落者の元に降りる講習

・スリングを使用した背負い搬送方の講習

ロープで急斜面を降りる実技講習

背負い搬送実技講習

＜まとめ＞

・コロナ禍の下で講習会を企画・運営いただいた方々に感謝申し上げます。

・遭難しないためには、地図読み、装備の確認等事前準備が重要であることを学んだ。

・安全登山に関しては、体力・技量を考慮して、余裕のある時間設定、無理のないルート選択が必須でありことを認識した。

・ロープワークに関しては、繰り返し学習して習得していきたいと思う。

・今回の講習会で学んだことを支部の安全講習会にも取り込んでいきたいと思う。

埼玉支部・山岳古道調査プロジェクト講演会「峠歩きは面白い！」報告

山岳古道調査ＰＪ　副実行委員長　松本敏夫

山岳古道調査プロジェクト主催による日本山岳会創立 120 周年記念事業・全国古道調査プロジェクト兼「山の日」記念講演会「峠歩きは面白い！」は、令和 4 年 8 月 11 日（木・祝日）、13;30～15;00、埼玉会館・ラウンジ（2 階）で開催された。講師は「埼玉の峠」、「峠　秩父への道」等の著書及び埼玉県の峠道に精通されている埼玉県立川の博物館・研究交流部長の大久根茂氏に依頼した。

講演会には、埼玉支部会員（23 名）、埼玉県山岳スポーツクライミング協会及び一般古道愛好家（26 名）を含め総計 49 名が参加した。「山の日」は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という趣旨で設立され、日本山岳会及び各支部で実施する関連事業の一環として、埼玉支部では古道調査プロジェクトの講演会と兼ねて実施した。酷暑のため外出も躊躇われる状況で、かつ新型コロナウイルス感染症（第 7 波）が猛威を増す中、アルコール消毒や三密回避並びにアクリル板設置等の感染防止に注力をしながら、定員 100 の会場で募集人数を 50 名に限定して開催した。

講演内容は多岐にわたりましたが、①峠の語源では、室町期頃から使用されたと報告され、「たわ越え⇒とうげ」、「たむけ（手向ける＝神仏に何かを捧げる）⇒とうげ」等の説が示された。

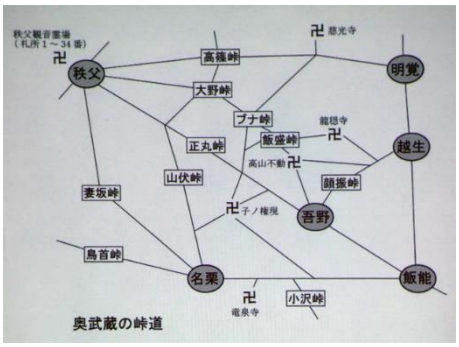
②峠の地形では、登山では鞍部、通過点などの場所であるが、「大雨の峠は越えた」など峠の先に見えるのは明るい未来を表し、柳田國男の「峠の表と裏」の紹介（沢筋が表で、尾根筋が裏）があり、興味深く拝聴した。

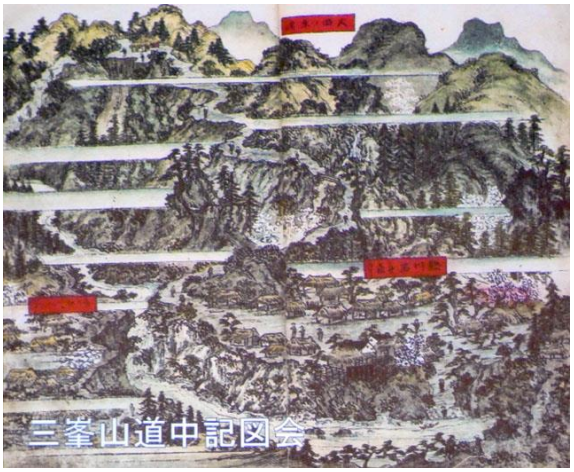
③峠の名称では、集落名（正丸峠）、神仏名（地蔵峠）、樹木名（一本杉峠）、地形（赤岩峠）、道の状況（八丁峠）、人名（将監峠：武田軍の金山奉行）などを例示し、代表的な峠が紹介された。

④峠歩きの魅力として、静かな山歩き、歩きやすい道、石仏や道標との出会い、などと共に荒れた峠道や廃道も増加している状況が示された。

⑤秩父にとっての峠として、政治・経済・信仰・生活の道などの秩父の峠道の多様性が報告された。

⑥三峯信仰と峠では、関東一円に広がるお犬様（オオカミ）信仰と参詣道、江戸末期の黒船来航によるコレラ（アメリカ狐が原因との噂話が広がり、三峯山のご眷属である狼の効果を信じた？）退治、安政 5 年の「駿州御宿村からの三峯参り」など興味深い話が多かった。





⑦峠道の今では、昔ながらの旧道が残っている十文字峠、車道に分断されながらも残っている道、廃道となった峠道などの詳細な説明があった。

会場からの質疑が数名からあり、講演の内容が充分に理解して頂けたと思われた。大久根氏は卒論のテーマが「塩の道」とのことで、既に学生時代から古道に興味を持たれたようである。坂東 9 番慈光寺から坂東 10 番岩殿観音を結ぶ笛吹峠（旧鎌倉街道）、ときがわ町と飯能を結ぶブナ峠、畠山重忠所縁の妻坂峠など馴染みの深い峠なども紹介された。時間に余裕があれば、もう少し秩父の峠道に関する伝説や地元の歴史との関連なども聞きたいところであった。

同好会　平日山行倶楽部　特集
６月 奥多摩ベースキャンプ訪問記　　山行委員　米山英三

（参加者：東、立原、吉田、野口、清登、米山、高橋、飛入りで横山）

梅雨ど真ん中の 6 月 14 日に平日山行倶楽部 7 名で東京多摩支部の奥多摩ベースキャンプ（BC）に泊めていただき、奥多摩むかし道を歩いてきました。

奥多摩 BC は JR 奥多摩駅から徒歩 5 分という便利な場所にあり、元薬局だったという古民家で（大家さんは多摩支部会員）、薬局だった部屋はエベレスト登頂やたくさんの山の写真や JAC の年表などが展示され、JAC のギャラリーとなっています。住居部分は有志の方々が通い詰めて清掃、補修をされており、居心地の良いスペースとなっています。私たちもギャラリーでテーブルを囲んで奥多摩の銘酒「澤乃井」をしこたま飲ましていただきました。まさに奥多摩の玄関口であり、ベースキャンプでした。

雨の奥多摩むかし道、緑が一段と綺麗で、楽しめました！

ベースキャンプは周りを気にすることなく、美味しいお酒で山談義、楽しいひと時でした。

奥多摩ベースキャンプ

同好会　平日山行倶楽部　特集
７月 霧ヶ峰で文学の香り　　広報委員長　橋本久子

（参加者：小島、橋本、立原、米山、野口、林、浅田、高橋）

７月２５日～２６日の日程で８名の皆さんと霧ヶ峰の山旅にでかけました。

１日目は車山高原を歩き八ヶ岳や富士山そして南アルプスの山脈を愛でながら車山頂上の展望台で軽い昼食を摂りました。石の間には麝香草がかぐわしい香りを放っていました。それから「ころぼっくるひゅって」に立ち寄り一息入れてから今日の宿である「クヌルプヒュッテ」に向かいました。創業６５年を迎えるこの山小屋の名はヘルマン・ヘッセの『クヌルプ』という小説からきています。理想を求めて松浦夫妻が築き上げたこの山の家にはかつての文人たちが集った温かな雰囲気に充ちた空気が流れていました。手作りの調度品、ランプ、読み込まれた蔵書の数々。部屋の奥に置かれた署名帖には皮のカバーがかけられ訪れた人々の思いが記されていました。棚には６０冊を超える署名帖が並んでいます。

待ちに待った夕食は湯気の立つハンバーグ。食器が美しかったです。そして朝食はこんがりと焼けたフランスパン。皿の盛り合わせはスクランブルエッグとソーセージ、サラダ、フルーツ。コーンスープ。たっぷりのコーヒー。高橋さんはパンのお代わりをしていましたね。

クヌルプヒュッテ前にて

八島湿原

ゆっくり出かけた２日目の行程は八島ヶ原湿原の散策です。高原の植物はニッコウキスゲにとって代わってヨツバヒヨドリが一面を覆っていました。雨が少しぱらつきましたがすぐ止んで青空が見えました。湿原には数えきれないほどの高山植物で初めて知る名前もあり嬉しかったです。メンバーの花の好みなどもわかって納得でした。終点はビジターセンターでタクシーを頼みました。

朝霧かかる車山

万治の石仏（俺に似てる？）

ここで林さんのたってのご希望で下諏訪にある「万治の石仏」を見学することになりました。

タクシー２台に分乗して石仏へ直行と思いきや、地元のタクシーの運転手さんの熱いお勧めで名物御柱の「木落し坂」に連れて行かれました。斜度４０度くらいの坂を見て今度テレビで観る時はもっと実感が湧くと思いました。説明がとても熱心でしたから。岡本太郎絶賛の「万治の石仏」は諏訪神社の奥のほうにあり顔は小さく胴体ががっしりとした安山岩でした。万治三年（１６６０年）と刻まれていました。表情はイースター島のモアイ像を連想させます。林さんは自分に似ているとご満悦でした。

２日間心配した雨にも遇わず参加された皆さんと楽しく過ごすことができとても癒された山旅でした。「山の家クヌルプヒュッテ」にまた行きましょう。

同好会　平日山行倶楽部　特集
９月 静かな尾瀬山行　　会員　浅田 稔

（参加者：清登・橋本・浅田・高橋）

高速バスを利用して草紅葉の静かな尾瀬を楽しんできた。天気予報は曇り後雨だったが、平日山行倶楽部の行いの良さのせいか、一日中晴れっ放し。平日なので人も少なく、おかげでゆったりと尾瀬の散策を楽しみ、橋本さんもスケッチの時間が取れた。

宿泊は、埼玉支部会員の高妻さんが管理する「原の小屋」の予定であったが、奥さんの怪我の為、小屋は休業となり、隣の「尾瀬小屋」泊りとなった。宿泊客もこの季節の平日とあってすいており、風呂・料理も良く、山に来てこんなに快適でよいものかと思った。

２日目の朝は曇り。今日の目的は名瀑 100 選の三条ノ滝鑑賞である。温泉小屋を過ぎると尾瀬の穏やかだった道が一変、岩・階段・鎖の道が始まる。途中、平滑ノ滝を覗き、最後に三条ノ滝まで一気に下る。尾瀬の水全部を吐き出す滝の勢いは凄まじい。

滝鑑賞後は、燧岳の北側を巻き御池バス停へ。小さな沢を超え、数個の田代の中を歩く。結構長い。尾瀬ヶ原に比べれば、夫々が小さい田代だ。途中、雲が下りてきて雨具を着用。裏燧岳の双耳

峰のスポットからは、当然何も見えない。

御池着１３時、バスは 13：10 発。ギリギリというか、ジャストタイミング。勿論、車中で乾杯！当初の参加希望者が減って、４人になったが濃厚な会話を楽しめた山行だった。

至仏山を望む・人影は見えない

池に映る逆燧岳・一人歩く清登さん

料理が評判・尾瀬小屋

迫力満点名瀑 100 選・三条の滝

同好会　平日山行倶楽部　特集
１０月 秋の涸沢に行く　　会員　清登 緑郎

（参加者：町田、水野〈町田友人〉、米山、浅田、清登）

10 月 3 日、上高地の河童橋に平日山行クラブの精鋭が集合した。今日は、徳澤園まで 2 時間の余裕の歩きである。途中、嘉門次小屋や明神池に立ち寄り、岩魚の塩焼きやウエストンのピッケルを見たりしながら、ゆっくりと歩く。徳澤園では、「極楽極楽」と言いながらお風呂に入り、夕食ではステーキに舌鼓を打つ。贅沢な初日であった。

10 月 4 日、今日は長丁場である。5 時半スタート、途中間違いようのない道を間違え多少のロス

があったが、横尾経由で本谷橋に無事到着した。ここから、急坂が続くが、さすが精鋭パーティーである、確実に歩を進め一致団結、ほぼ予定通り 10 時過ぎには涸沢ヒュッテに到着した。大勢の老若男女が、名物のおでんに長い行列を作り、涸沢の紅葉を愛でていた。我々も、日本三大山岳紅葉の一つである涸沢の三段紅葉に酔いしれ、写真を撮りまくった。しかも、徳澤園の弁当は極上のカツサンドである。

徳澤園でご機嫌です

涸沢の紅葉　見事!!

オコジョのお目見え

11 時過ぎに帰路につき山研に向かう。本谷橋手前で、オコジョに出会った。サービス精神旺盛のオコジョで、写真や動画に撮ることが出来た。オコジョを見たのが初めてのメンバーもいたので、楽しい体験となった。16 時半、山研に到着。またまたお風呂に入り、女性陣が腕を振るい、マーボー茄子とサバ塩焼きで大宴会となった。今日は、46,000 歩も歩いた。直ちに就寝である。

10 月 5 日、夜半から雨となった。ウインナーと目玉焼き、納豆までついた美味しい朝食をいただく。とりわけ、山研のご飯とみそ汁が美味しい。ご飯は安曇野産の新米とのこと。朝から食が進む。管理人の山田さんに感謝である。

名残は尽きないが、バスターミナルに向かう。タイミングよく新島々行きのバスに乗れた。バスの発車直前､バスターミナルに平川さんがいるのを発見。平川さんは、新穂高から焼岳にまわって降りてきたそうである。お互い手を振っただけであったが、奇遇であった。全員揃って、松本から「あずさ」に乗って無事帰宅した。本当に楽しい山行であり、また一緒に登りたいメンバーであった。次回を楽しみにしたい。

山研玄関

「山の本棚」シリーズ⑤

会員　小原茂延

山岳書(&山岳画)　No.5

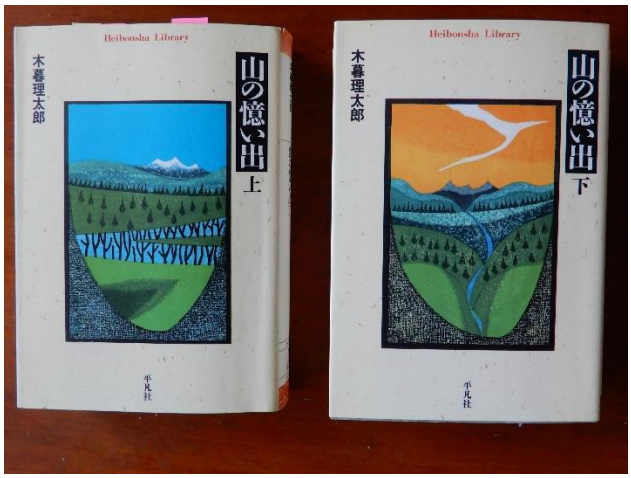
年譜(浅野孝一・横山厚夫編)

明治 6 年群馬県新田郡強戸村大字寺井(現太田市)に生れる
〃 11 年 祖母と赤城山に登る
〃 18 年 富士講で富士登山
〃 22 年 上京し東京府立尋常中(現都立日比谷高校)するが、後に私立郁文館中に転校
〃 26 年 仙台第二高等中学校(当時)入学。在学中は野球部で活躍した。8 月、妙義―浅間―蓼科山―木曽御嶽山他登る
〃 27 年 8 月、渡辺千吉郎らの利根水源探検隊のあとをたどって尾瀬の一部に足を踏み入る。
〃 29 年 木曽御嶽山―木曽駒ケ岳―甲斐駒ヶ岳―甲府―高尾山―八王子他登山
〃 30 年、31 年北岳登れず
明治 32 年 3 月仙台第二高等学校卒業、東京帝国大学文科大学哲学科入学

木暮理太郎（1873.12.7~1944.5.7）

■「山の憶い出」上・下

平凡社ライブラリー 1999 刊



底本は 1941 年龍星閣刊行の「山の憶ひ出」で収載は

（上巻）

- **秩父の奥山**
- 奥秩父の山旅日記
- 釜沢行　・笛吹川の上流(東沢と西沢)
- 利根川水源地の山々
- 三国山と苗場山　・秋の鬼怒沼
- 皇海山紀行　・黒部川を遡る　他

（下巻）

- **望岳都東京**　・嘉陵紀行
- 黒部峡谷　・越中劔岳
- 尾瀬の昔と今
- 秩父の渓谷美　・白馬岳
- 秩父のおもいで　・登山談義　他

□紀行文

「山の憶ひ出」の序で著者が書いているように他の登山家に比して、**木暮は紀行文を出版するのがかなり遅かった。**山の友人、出版社から勧められたものの断っていた。10 年乃至 20 年前の雑誌に書いたものを今更の感だと言っていたが、**松方三郎、龍星閣主人そして尾崎喜八夫妻からの懇請あって決心したという。**その刊行は昭和 13 年 12 月の日付で 66 歳であった。

明治 34 年 8 月猿ヶ京―三国峠―苗場山―和山

〃 **37 年 10 月**「ハガキ文学」創刊編集者となる。同誌に絵画および星に関する随筆連載

〃 **38 年春**、この頃に髭をのばし始める。12 月東京帝国大学文科大学哲学科中退

〃 **39 年**南日(田部)重治と知り合う。(高須梅渓を介して)

〃 **40 年**　東京市史編纂室嘱託

〃 **41 年 3 月**『泰西名画鑑』他

〃 **42 年 10 月**、田部と辻本満丸家訪問、小島烏水、中村清太郎、武田久吉らと知り合う。11 月野田友枝と結婚、本郷区駒込肴町(文京区向丘)に住む。

〃 **42 年 5 月**浅川―三頭山―雲取山―青梅（同行　田部）

10/14~18 栃本―十文字峠―梓山―甲武信岳―三宝山―梓山―川端下―金峰山―黒平(同行田部)

〃 **明治 45 年**　大正元年　40 歳

7/23~27 塩山―雁坂嶺―甲武信岳―梓山―中津川―両神山―小鹿野(同行・田部は梓山まで)

8/26~28 塩山―三ノ瀬―唐松尾山―雁坂峠―栃本 11/16~18 塩山―三ノ瀬―唐松尾山―将監峠―雲取山―強石(同行・田部、中村)

■**「秩父の奥山」**

生地の現群馬県太田市は赤城山の南麓に当たり、幼い頃に祖母と赤城登山をしたというように親しんでいたが、やがて長ずるに従い南方に望む秩父の連山に想いを馳せていった。

生家近くを流れる蛇川畔に**「生誕地之碑」**が 1978(昭和 53 年）に地元の強戸山岳会の手によって建立された。秩父産の三波石に黒御影がはめ込まれ、「木暮理太郎翁生誕地之碑」及び添え書きとして**「山登りは先人の肩の上にのって先へ上へと進むものだ」**との文言が**日本山岳会会長 西堀榮三郎謹書(撰文)**とある。「木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会」により、毎年 11 月 3 日に「偲ぶ会」を開催している。

著書「秩父の奥山」にある文章が顕彰碑の背面に刻まれている。**「東上州から見た冬の秩父連山は色彩が美しいばかりでなく、自分には更に懐かしい思い出の湧く山である。・・・」**とあり、原文をやや省略した文言が紹介されている。

本文の金峰山の項に「金峰山は実に立派な山だ。独り秩父山中に漸然頭角を抜いて居るばかりではなく、日本の山の中でも第二流を下る山ではない。世に男の中の男を称えて裸百貫という諺があるが、金峰山も何処へ放り出しても百貫の貫録を具えた山の中の山である。」と書いている。

大正 2 年 7 月「秩父会」を雑司ヶ谷の料亭で開催、参加者は木暮の他に中村、田部、辻本、武田など。9 月日本山岳会入会(紹介者 高野鷹蔵、辻村伊助)会員番号 319。この頃よりスケッチ始

5 月下旬、甲府―金峰山―国師岳―甲武信岳―梓山―十文字峠―甲武信岳―破風山―雁坂峠―栃本(同行・田部、中村)。

7/31~8/13 松本―徳本峠―上高地―槍ヶ岳―三俣蓮華岳―黒部五郎岳―薬師岳―五色ヶ原―立山温泉―立山―別山―劔岳―早月川―滑川(同行・田部。立山温泉からは宇治長次郎を雇い、五色で合流した中村、案内・佐伯春蔵とともに劔岳に登る)。

〃 3 年 日本山岳会幹事に就任『山岳』にパノラマ画『東京愛宕塔上より望める大井川奥山』と雑録欄に『東京より見ゆる山』の補遺を掲載。

〃 5 年 塩山～甲武信岳～栃本（同行 田部）12 月『山岳』編集所木暮宅へ、編集昭和 4 迄 14 年間行う（中略）

昭和 10 年 12 月、日本山岳会第 3 代会長に就任。

〃 11 年「中央亜細亜の山と人」他を「山岳講座」に執筆

〃 19 年 5 月心臓病で没 71 歳

□奥秩父金峰山麓の「木暮理太郎碑」と碑前祭

生誕地之碑に先立って、1951(昭和 26 年)霧の旅会、石楠花山岳会(東京市交通局職員中心の会)により建立されたが昭和 34 年の台風で破壊されたため同 35 年に現在地に移設された。再建された年の 10 月から碑前祭が催されている。現在は日本山岳会山梨支部、山梨県山岳連盟、須玉町観光協会が主催している。

第 60 回(令和元年)碑前祭

■「望岳都東京」

東京市内から望見し得る(大正 6 年)2000m 以上の高山は 72 座あるという。眺望の場所としては凌雲閣、赤羽台、愛宕塔、日本橋々上、高輪御殿山他を挙げている。昭和 8 年 11 月に霧の旅会大会において講演している。題して「東京から見える山」で、3000m 以上の高峰は冨士をはじめ、北岳、間ノ岳、悪沢、赤石、農鳥西峰、塩見、農鳥、聖が望めるという。中村清太郎らと確認している。

□その他

歴代会長で最長の 9 年近くを務め、ヒマラヤ研究に迄及んでいる。任期中に心臓病で倒れた。掲載年譜は平凡社版に拠ったが、最近の会報(925 号)によれば、平凡社版をベースに横山厚夫氏と「木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会」により『木暮理太郎年譜』が編纂された由で、その後判明した事柄を補い、さらに「木暮理太郎参考文献」が掲載されている。

画像著作権禁転載

「ペンリレー」第１回　「私の好きな－北岳」

事務局長　林 信行

北岳が好きです！

以前「2 位じゃダメなんでしょうか？」という政治家の発言が話題になりましたが、ご存知のとおり北岳は 3,193m の第二の高峰です。

1994.7.　「俺の北岳…」

自分の山行記録を開いてみると最初に北岳に登ったのは 1986 年 36 才の時、キタダケソウを拝みに行こうと職域の仲間 4 人で梅雨空の真っただ中、決行とありました。

確かに憧れのキタダケソウ様ともお会いすることは出来ましたが、泣きたいぐらいの猛烈な雨でじっくりと出会いを楽しんでいる余裕などなかったことが強く印象に残っています。

その後、6 回程登っていますが、北岳から望む赤屋根の北岳山荘を下に見た間ノ岳、農鳥岳の稜線の風景、中白根山から望む北岳の「気品ある山容」はずっと見ていても飽きない大好きな景色です。

深田百名山には北岳について「謙虚」、「高い気品」、「凛とした気概」「清秀な高士のおもかげ」等の見事な語彙で綴られています。

大好きな北岳について非常に残念だったのが 2020 年に開催されるはずであった「日本山岳会埼玉支部設立 10 周年記念式典･講演会」が新型コロナ感染拡大で開催できなくなってしまったことです。

「記念式典・講演会」では北岳を舞台に多くの小説、エッセイを書かれている作家の樋口明雄氏をお迎えし、樋口氏と懇意にされている埼玉支部の会員でもある髙妻潤一郎氏（元 白根御池小屋管理人・現 尾瀬 原の小屋管理人）とのトークショウを企画、題名は樋口氏より「北岳四方山（よもやま）話」との連絡をいただきました。支部の夏山山行も北岳を企画し、当時の山行委員長の山崎さんと小生で下見の日程も決め、まさにその年は大好きな北岳にどっぷり浸かることが出来るはずでした。

当初 5 月に「記念式典・講演会」開催の予定が、かつて経験したことのない新型コロナ感染拡大で世の中騒然！　その年の 11 月に延期することになりましたが､残念ながら最終的に開催を断念せざるを得なくなりました。

あれからまだいまだに、新型コロナという魔モノが、はびこっています。

今年は個人的に膝の損傷を起こして北岳とのご対面は叶いませんが、自然保護委員会の横山さんによると、来年度の夏の自然観察会は北岳のライチョウのケージ保護観察会とのこと、早くも来年の参加申し込みをお願いしました。

また大好きな北岳とご対面出来るのを楽しみにしているところです。

新入会員　自己紹介

事務局長　林　信行

《石川　峰子　　会員番号 A0466 》

こんにちは。さいたま市在住の石川です。今年４月の『ふれあい登山』に一般参加者として息子と参加した事が JAC 埼玉支部加入のきっかけでした。私の登山レベルは、日帰りで行けるような登山・ハイキングをいくつか経験した程度の、ほぼ初心者です。日本山岳会は＜とても＞敷居の高い団体だと思っていました（今でも思っています）。が、このたび入会というご縁があったので社会貢献委員会に所属しながら行けそうなイベントに参加し、皆さんと登山を楽しめればと思います。それまでは週末に彩湖周辺をジョギングし、体力の維持に努めます。ところで我が家は２匹のネコがいます。ロシアンブルーと雑種です。ネコは超カワイイ‼　ネコ情報を共有できる仲間ができると嬉しいです‼

《池上 純一　　会員番号 A0490 》

この都度、入会させて頂きます、池上純一と申します。登山歴は浅く、数年前に会社の同僚に誘われて北茨城の低山をプチ縦走した時、疲労困憊になりながらもゴールできことで登山にはまりました。現在は北関東の山々を主に活動しています。入会を機会に諸先輩の皆様からいろいろと学ばさせて頂き、活動地域及び登山の幅を広げたいと考えております。よろしくお願い致します。

事務局からのお知らせ

事務局長　林　信行

埼玉支部会員　在籍者数及び異動

2022 年 10 月 10 日現在

会員	125 名	準会員	19 名	計	144 名

【入　　会】

会　員			準会員		
			A0466	石川　峰子 (さいたま市)	6 月
			A0490	池上　純一 (久喜市)	10 月

【退　　会】

会　員			準会員		
10891	轡田　隆史	6 月			

《お願い・お知らせ》

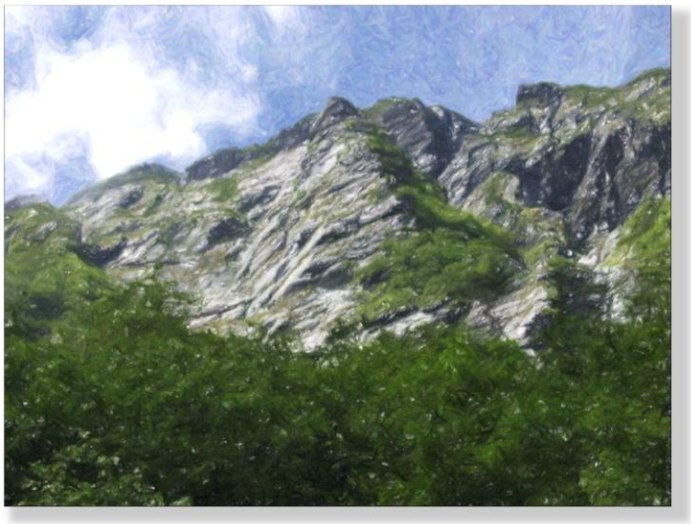
■　登山届の提出について

日本山岳会では会員・準会員に対し会の山行、個人山行時に「登山届」の提出が義務付けられています。必ず山行の際には事務局　林まで提出してください。また、下山連絡も忘れずに！

当方より本部遭難対策委員会に転送致します。

送り先：支部事務局　mail：takenoko001@gmail.com ⇒本部 遭難対策委員会

FAX：　049-289-1128



北岳　バットレス

【編集後記】

暑さに喘いだ夏も急激な秋の到来で暖房の恋しい朝を迎える季節となりました。

埼玉支部もやま塾の活発化で若手の会員も増え、厳しい山にもどんどん出かけるようになりました。一方、高齢に入った会員は今年度発足した平日山行倶楽部で体力に応じた山行を楽しんでいます。これはとても自然な流れだと感じています。

前号でお知らせしました会員のエッセイが始まりました。林信行さんの発案でタイトルは「ペンリレー」となりました。会員の知られざる一面が見えてきてより一層会員同士の理解が深まればいいなと思っています。ご愛読ください。　　橋本久子

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報　第 37 号　2022 年 11 月 15 日発行

発行者：公益社団法人日本山岳会 埼玉支部　支部長　大山光一

事務局：350-0201 埼玉県坂戸市赤尾 1910 林信行方

電　話：080-2256-4829　　Email: stm@jac.or.jp

埼玉支部ホームページ：https://jac1.or.jp/saitama/